※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１８

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅱ探究	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	新編 数学Ⅱ（実教出版）						
副教材等	ラウンドノート数学Ⅱ（実教出版），Study-Up ノート数学Ⅱ（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では，課題に対して，自ら考え，周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で，自分の考えを発表したり，議論したりする活動を行います。
・自分で問題を解く際も上の一連の流れを意識しましょう。わからない問題も解決の方法を構想することが大事です。またその思考の過程を途中式として表現できるようにしましょう。答えあわせを必ず行い，自分がどこでつまずいたのかを把握してください。
・家庭学習における課題は，定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】
　いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】
　数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
　数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

※令和４年度以降入学生用

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることができる。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力を身につけることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしている。 また，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章 式と証明	第１節　式と計算 1. 正式の乗法 2. 二項定理 3. 整式の除法 4. 分数式	a:整式の除法に習熟している。 分数式の計算に習熟している。 恒等式の基本性質を活用し，恒等式であるための条件を用いた処理ができる。 分数式の計算法則や整式の除法について理解し，身に付けている。 恒等式の基本性質を理解し，身についている。 b:分数の計算と分数式の計算の類似性を認識できる。 方程式と恒等式の違いを認識できる。 c:恒等式の性質に関心をもち，それらを活用しようとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

※令和４年度以降入学生用

		第2節　複素数と方程式 1. 複素数 2. 2次方程式 3. 因数定理 4. 高次方程式	a: 数の範囲を複素数まで拡張する必要性と意味を理解できる。 剰余の定理を導く考え方を理解でき, その考え方を基にして因数定理を導くことが理解できる。 虚数の意味を理解し, 複素数の計算に習熟している。 整式を 1 次式で割ったときの余りを剰余の定理を活用して求めることができる。 複素数の意味と演算法則を理解している。 複素数の範囲では, 代数方程式が常に解をもつことを理解している。 除算を行わなくとも剰余の定理を用いて余りを求めることができることを理解している。 ３次以上の整式の因数分解や高次方程式の解法に因数定理が活用できることを理解している。 b: ・解と係数の関係や判別式の意味を理解し, それらを具体的事象の考察に活用できる。 ３次以上の整式の因数分解や高次方程式の解法に因数定理を活用できる。 c: 数を複素数まで拡張する考え方やその過程に関心をもち, 複素数の基本的な性質を調べようとする。 剰余の定理や因数定理に関心をもち, 因数分解や高次方程式の解法などに活用しようとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

※令和４年度以降入学生用

		第3節　式と証明 1. 等式の証明 2. 不等式の証明	a: 等式や不等式の証明について，見方や考え方のよさを認識し，代数的な論証について理解できる。 等式や不等式の基本性質を用いて式の証明ができる。 等式，不等式の基本性質を理解し，身についている。 等式や不等式の基本的な証明方法を理解している。 相加平均と相乗平均の大小関係を理解している。 b: 等式や不等式を目的に応じて変形し，その式の意味を明確に表現できる。 相加平均と相乗平均の大小関係を活用できる。 c: 等式や不等式の基本性質に関心をもち，それらを式の証明に活用しようとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

※令和４年度以降入学生用

2学期	第2章 図形と方程式	第１節　点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	a:内分点を求める公式を活用して重心を求める公式を導き出せる。 二直線について，平行・垂直の条件を式で表現したり，交点の座標を連立方程式を解いて求めることができる。 内分点，外分点，重心の意味を理解し，それらの座標を求める公式を身に付けている。 いろいろな条件を満たす直線の方程式を求める考え方を理解している。 二直線の傾きを用いて，平行・垂直を調べられることを理解している。 b:座標を用いて，内分点の位置や２点間の距離を求める公式の意味を理解できる。 二直線の交点や垂直であるための条件などを方程式を用いて調べる解析幾何的な考え方を認識できる。 c:座標を用いて，点の位置や２点間の距離を求める解析幾何的な考え方に関心をもち，積極的に活用しようとする。 直線を方程式で表すことに関心をもち，直線の方程式を活用して二直線の位置関係を調べようとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト
		第2節　円 1. 円の方程式 2. 円と直線	a:円を方程式で表し，円と直線などの位置関係を判別式を用いて調べる考え方を理解できる。 円について，いろいろな条件を式で表現し，その円の方程式を求めることができる。 ２点間の距離の公式や内分点の公式を活用して，いろいろな条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 b:図形を「条件を満たす点の集合」とする数学的な見方や考え方を認識できる。 c:図形を方程式で表すことに関心をもち，円と直線の位置関係や軌跡などの考察に方程式を活用しようとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

※令和４年度以降入学生用

		第3節　軌跡と領域 1. 軌跡と方程式 2. 不等式の表す領域 3. 連立不等式の表す領域	a:x，y についての不等式を座標平面に点の集合として図示する考え方を認識できる。 事象の最大・最小を領域を活用して求める考え方を理解できる。 領域を利用して，事象の最大・最小を調べることができる。 座標平面上の領域と不等式の関係を理解し，具体的な事象の最大・最小問題を図形的に考察し，活用する考え方を身に付けている。 b:不等式を満たす数値を座標平面上の領域として表現できる。 座標平面上の領域を不等式で表現できる。 c:不等式を満たす数値を座標とする点の集合が座標平面の一部分を表わすことに興味関心をもち，平面図形と不等式の関係について調べようとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト
2学期	第3章　三角関数	第1節　三角関数 1. 一般角 2. 弧度法 3. 三角関数 4. 三角関数の性質 5. 三角関数のグラフ 6. 三角関数と方程式・不等式	a:一般角や弧度法の概念を認識できる。 三角関数のグラフを活用して，周期や最大・最小などの基本的な性格を認識できる。 扇形の面積や弧の長さを求める弧度法を用いた公式を理解し，身に付けている。 三角関数の式と周期，最大・最小の関係を理解し，身についている。 三角関数の公式や三角関数表の意味を理解し，その使い方を身に付けている。 b: 三角関数の周期や相互関係を定義や基本性質を活用して調べることができる。 三角関数のグラフの性質を理解し，周期や最大・最小を調べることができる。 c:弧度法の考え方に関心をもち，扇形の面積などを求める際に積極的に活用しようとする。 三角関数の性質や辺と角の相互関係に関心をもち，それらを調べようとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

※令和４年度以降入学生用

		第2節　加法定理 1. 加法定理 2. 加法定理の応用	a:加法定理から２倍角の公式などを導く過程を理解できる。 三角関数の合成について理解できる。 三角関数の値や三角関数に関する方程式, 不等式の解を加法定理を用いて求めることができる。 b:三角関数の最大・最小を加法定理を活用して調べることができる。 c:加法定理に関心をもち, 加法定理から２倍角の公式などを導き, それを活用しようとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト
	第４章　指数関数と対数関数	第1節　指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数	a:指数を自然数から, 整数や有理数に拡張する必要性と意味を認識し, 指数法則や指数関数の特徴を理解できる。 拡張された指数の意味や指数法則を用いて, 指数計算ができる。 有理数まで拡張された指数の意味を理解し, 指数法則を身に付けている。 b:指数関数のグラフの増加・減少の特徴を適切に活用できる。 c:指数を自然数から, 整数や有理数に拡張する過程に関心をもち, 指数を具体的な事象に活用しようとする。 指数関数のグラフに関心をもち, その性質を調べようとする。			
		第2節　対数関数 1. 対数とその性質 2. 対数関数	a:常用対数を活用して, 桁数などを求めることができる。 対数を含む方程式・不等式を解くことができる。 対数の性質や底の変換公式の活用方法を理解している。 大きな数の桁数を調べるなど常用対数を活用する考え方を身に付けている。 b:$a^y = x$ を$y = \log_a x$と表現する意味を認識し, 対数の性質や対数関数の特徴を理解できる。 c:指数と対数の関係に関心をもち, 対数の基本性質を調べようとする。 対数のグラフに関心をもち, その性質や指数関数のグラフとの位置関係を調べようとする。			

※令和４年度以降入学生用

3学期	第5章 微分法と積分法	第1節 微分係数と導関数 1. 平均変化率と微分係数 2. 導関数 3. 接線の方程式	a:微分係数の図形的意味を理解できる。 微分係数と導関数の関係を理解し，接線の方程式を求めことができる。 微分係数の意味を理解し，接線の方程式を求める公式を身に付けている。 導関数の意味を理解し，関数の和，差及び実数倍の導関数を求める公式を身に付けている。 b:極限の考え方について，直感的に認識できる。 平均変化率，微分係数，導関数の概念を認識できる。 c:関数の値の変化を極限を用いて調べる考え方に関心をもち，その考え方を活用して，整関数の値の変化を調べようする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト
		第2節 微分法の応用 1. 関数の増大と極大・極小 2. 方程式・不等式への応用	a:導関数を活用して，関数の増減を調べる考え方を理解できる。 極値の意味を理解できる。 導関数を活用して，関数の増減，極値を調べ，関数のグラフの概形がかける。 導関数と関数の増減や極値の関係を理解している。 関数のグラフを活用して，関数の最大，最小を調べたり，方程式や不等式の解を調べる考え方を身に付けている。 日常の事象の問題解決に微分法が有用であることを理解している。 b:方程式や不等式の解について，グラフと x 軸との位置関係から調べられることを認識している。 c:導関数を活用して，関数の増加，減少を調べる考え方に関心をもち，その考え方を活用してグラフの概形を描こうとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

※令和４年度以降入学生用

		第3節　積分法 1. 不定積分 2. 定積分 3. 定積分と面積	a:微分の逆演算として不定積分を導く考え方を理解できる。 積分の考えが図形の計量に活用できることを理解できる。 定積分と面積の関係を用いて，関数で囲まれた図形の面積を定積分を活用して求めることができる。 関数の和，差，実数倍の不定積分の意味を理解している。 関数の和，差，実数倍の定積分の意味を理解している。 定積分と面積の関係を理解し，２つの関数で囲まれた図形の面積を求める考え方を身に付けている。 b:微分と不定積分の関係を用いて，積分の公式を考察できる。 c:微分と積分の関係に関心をもち，原始関数を求めようとする。 定積分と面積の関係に関心をもち，曲線で囲まれた図形の面積を定積分を活用して求めようとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度